2023 年 9 月 29 日

日本科学未来館イベント「こどもからみる不思議世界探求」
にご参加いただいた皆様へ

2023 年 8 月 15–17 日に上記イベントにご参加いただき、誠にありがとうございました。3 日間で、約 60 家族・85 組のお子さんとその保護者の方に参加協力をいただき、大変貴重なデータを得ることができました。心より感謝いたします。

ここでは石井の担当した「親子で感じ方はどのくらい似ている？」というテーマのアンケート調査について、基礎的なデータ解析が終わりましたので、参加された皆様全体の傾向について報告します。

研究実施者：石井辰典（日本女子大学）
E-mail: ishiit@fc.jwu.ac.jp
研究統括者：山口真美（中央大学）

研究概要

私たち人間は、他者だけでなく動物に心があると思う傾向があります（これを「他者・動物に心を『帰属』する」と言います）。しかし、私たちが心を帰属するのは、人間や動物だけでなく非生物にも及びます。例えば最近では、人々がロボットにも様々な心が有るように感じることが報告されています（藤崎・倉田・麻生, 2007; 上出・高嶋・新井, 2017, Takahashi et al., 2014）。

こうした傾向・能力に対して心理学者の間では、2 つの考え方を巡って様々に議論されています。1 つの考え方は、この心の帰属能力は人間に自然に備わった能力で、自然発生的に生じるというものです。もう 1 つの考え方は、心の帰属能力は養育者等との関わりの中で育まれ生じてゆくものであるというものです。

1 つ目の考え方に従えば、例えば養育者の帰属能力とその子の帰属能力には関連がないと予測できます。一方で、2 番目の考え方に従えば、養育者と子の帰属能力には関連がある、つまり「養育者の能力が高い（／低い）と、それに基づく関わりをする結果、子の能力も高く（／低く）なる」という関係があると予測できます。

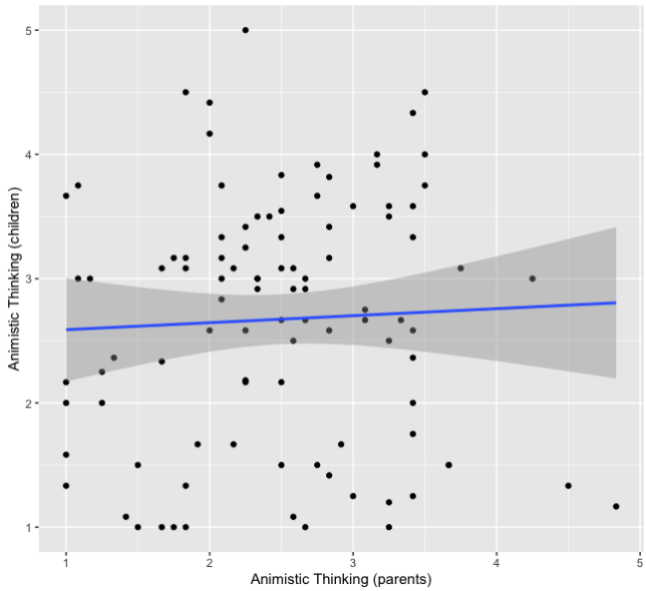
では養育者とその子の帰属能力の高さには関連があるのでしょうか、ないのでしょうか。今回この点を確かめる試みの 1 つとして、6〜14 歳のお子さんとそのご両親に「アニミズム心性尺度」と「自然の神格化尺度」に答えていただきました。まずアニミズム心性とは、大雑把に言えば、動物・植物・モノ・自然現象といったものに心を帰属し、擬人化した見方をすることです。つまり、こうした見方をどのくらいするのかについて質問に答えていただくことで、心の帰属能力の測定をしました。また、自然の神格化とは、自然物（大木・山・海など）に心を帰属し、それを神聖視することです。つまり、こちらの尺度では、心の帰属能力＋神聖化する傾向を測定しました。

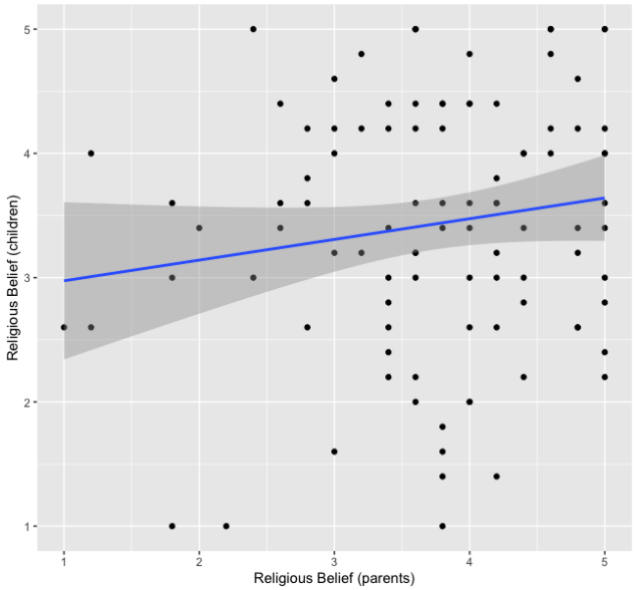
なお、**これまでの同様の調査において「アニミズム心性は親子では関連がない、自然の神格化傾向は親子で関連している（似ている）」らしい**ことがわかっています。

結果

まず**アニミズム心性尺度は、親のスコア（横軸）と子のスコア（縦軸）の間に関連は認められませんでした**（相関係数 $r = .05$）。下図（左）の通り、親のスコアが高いとしても、子のスコアが高いとも低いとも決まりません。親のスコアが低くでも、このスコアが高い場合も低い場合もあることがわかります。

また**自然の神格化尺度についても、親のスコア（横軸）と子のスコア（縦軸）の間に、統計的に意味のある関連は認められませんでした**（相関係数 $r = .15$）。ただし下図（右）の通り、親のスコアが高いと子のスコアも高い傾向が、散布図上では視認できます。もしかしたら、今回の 80 組のペアというデータ数では、本来なら存在する関連をきちんと検出できなかった（統計用語で“検出力不足”と呼ばれる状態だった）可能性があります。





以上から、今回のイベントのデータは**アニミズム心性も自然の神格化傾向も親子で似ていない**ことを示すものといえます。ただし上記のように、**この結果はこれまでの同様の研究の結論（アニミズム心性は親子では関連がない、自然の神格化傾向は親子で関連している）とは一致しないものであり、さらなる研究の必要があると考えています。**

そこで今後、データを継続して集めることで、自然の神格化傾向が親子で似ているのかについては、（とりあえずの）結論を出すことが必要です。少し触れましたように、「データ（参加ペア）の多さ」と「検出できる関連の強さ」は密接に関係しているので、もし自然の神格化傾向が親子で弱く関連しているなら（当然有り得そうなことです）より多くの、具体的には 170 組くらいのデータが必要ということなります。このくらいのデータを得れば「親子で自然の神格化傾向が似ているのか」という疑問について、一応の結論を下すことができるだろうと考えられます。